

不動産広告専門

販促の企画・折込チラシ・制作・印刷・折込



第三企画株式会社

東京都中野区新井1-11-2 TEL.03-5913-3033
宮地ビル 〒165-0026 FAX.03-5318-3339

Reform By Action

RBAタイムズ

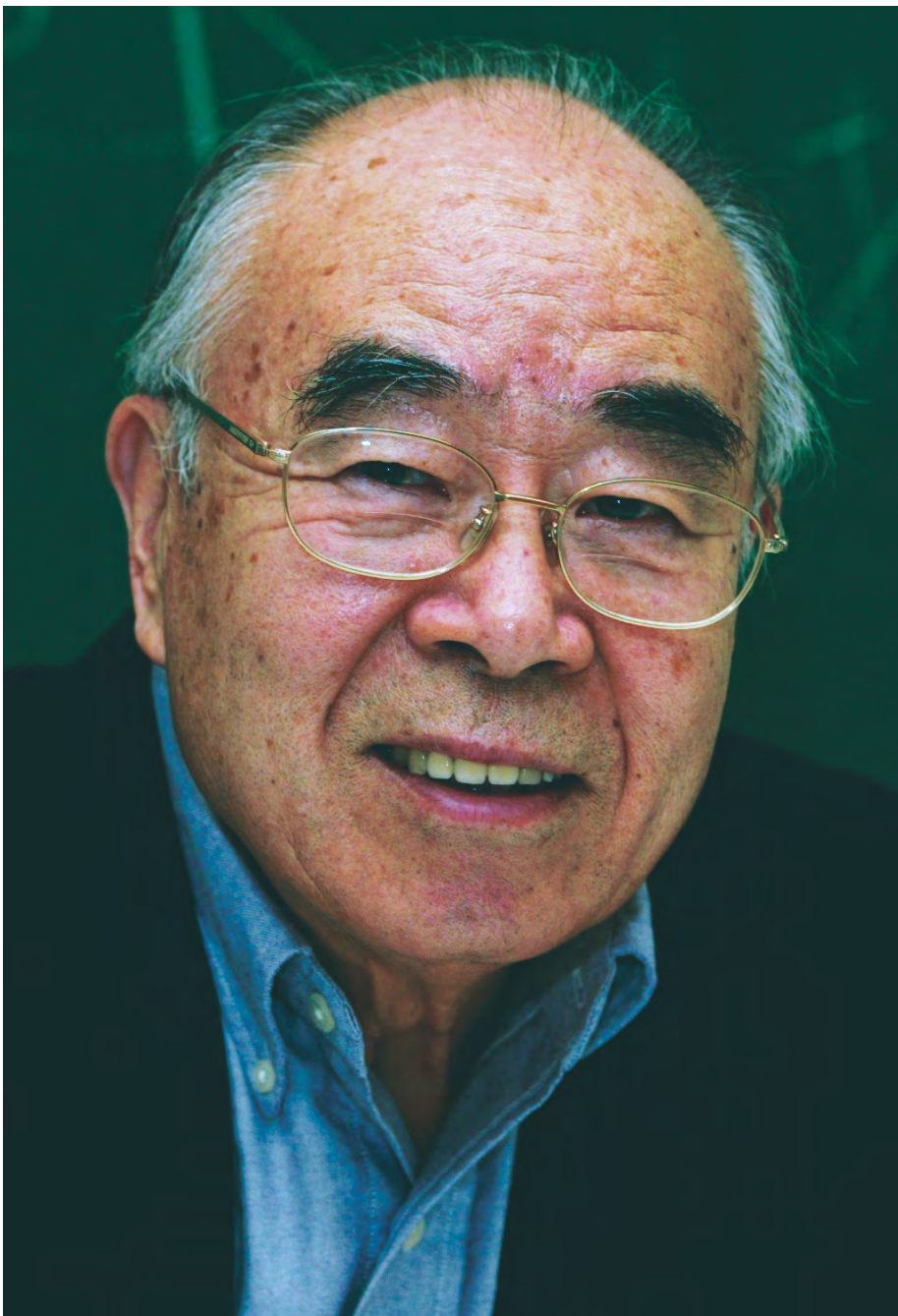
号外〈百瀬恵夫 特集号〉



2005年(平成17年)2月7日(月曜日)

制作・発行／第三企画(株) 〒165-0026 東京都中野区新井1-11-2 宮地ビル 電話03-5913-3033(代表) 発行責任者／久米信廣 編集者／牧田司

「余生は社会貢献に」



定年退職する明大教授 百瀬恵夫氏(69)

中小企業研究の第一人者として理論と実践を統一してこられた明治大学の名誉教授、百瀬恵夫氏(69)が今年3月で定年退職する。学園紛争時には「大学を潰すなら俺を潰してからにしろ」とデバ学生と真つ向対峙し、柔道部部長としては小川直也氏や吉田秀彦氏など数多くのメダリストを育て上げてきた。百瀬先生は私どもの大学になくてはならない人。定年は非常に惜しい」と語った長吉泉明大理事を始め、数多くの「百瀬ファン」に惜しまれながらの退職だ。しかし、本人は「これからの余生は社会貢献にさげたい。アジアの中小企業を育てる」と意気軒昂。ユネスコ講座で講義するため、零下40度のモンゴルに近く出向く。

極寒のモンゴルで講義

百瀬教授は、定年退職「いく」と語っている。後の生き方について「これからは社会貢献に余生をさげようと考えている。これまでの活動より忙しくなるかもしれない。第二企画の久米さんから後押ししてきた北京大學に本部があるアジア中小企業研究会の活動として中国 モンゴル、タイ、台湾でユネスコ・第三企画中小企業講座を開いて」



最後の百瀬ゼミ授業風景

「アジアの中小企業を育てる。これからのほうが忙しくなる」

い沖縄については、アジアを考える上で沖縄の存在は大きく、沖縄を起点にして全アジアのコンパスを描こうとも考えている」と語っている。

今回の「道〜人・情・愛〜」の出版については「道」という表題を選んだのは、これほど深い意味を持つ言葉はないからで、私の歩んだ70年の人生を振り返って、人としてのあり方や行き方を少しは示せたのではないかと。また、人も情も愛も私の好きな言葉で、人の生き様はかくのことくありたいと思ひ努力してきた。

序文には、以前なら恥じらいがあつて書けなかったような母親のこと、家内のことなども書いた。そんなことが平気で書ける歳になったということだ」と語った。

百瀬恵夫(もせ せいお)プロフィール

略歴

●1935年 長野県生まれ

●1958年 明治大学政治経済学部卒

●1980年 同大政治経済学部教授

●1991年 同大政治経済学部教授

●1997年 ケンブリッジ大学客員教授

●経済産業省・中小企業庁、厚生労働省・労働局等の各種審議会委員(長など務める。

《主な著書》

『中小企業論』

『中小企業・協同組織革命』

『検証沖縄問題』ほか多数

百瀬恵夫著「道〜人・情・愛〜」

出版記念パーティに4百人

弊社主催

教え子の 小川、吉田氏らも参加
武道家

百瀬教授の自著「道〜人・情・愛〜」

月7日ヒルトン東京で行ったもので、明治大学 長・中野清氏の3氏が発人・情・愛〜(A5判 われ 関係者ら約400 名誉教授元学長・岡野加 起人になつて

647ページ、1万円 人推定が盛大に祝った。 穂民、明治大学評議員 当日は、百瀬教授が育 田隆二氏 阿武教子さん

発行・第三企画)の発刊 弊社(RBAインター 会元議長・宮内久雄氏 上げた明治大学 委選部 泉浩氏など世界選手権覇 前日、自らの結婚式を挙

を記念するパーティが2 ナショナル)が主催して 衆議院議員自民党副幹事 出身の小川直也氏、吉田 者・オリンピックメダリ げたばかりで、この日の



ために新婚旅行を延期し 刊行しようという有難い

ては甘参じた。 同志がおられたが、著作

の発表済みエッセイ、論 ださる方々に多大な迷

評、小論文の中から選ん 惑をかける。そこで、本

でまとめられたもの。具 書『道』を出版して私の

体的事例を多く取り上 退任の一つの区切りにし

げ、平易な文章で書かれ ようということになった

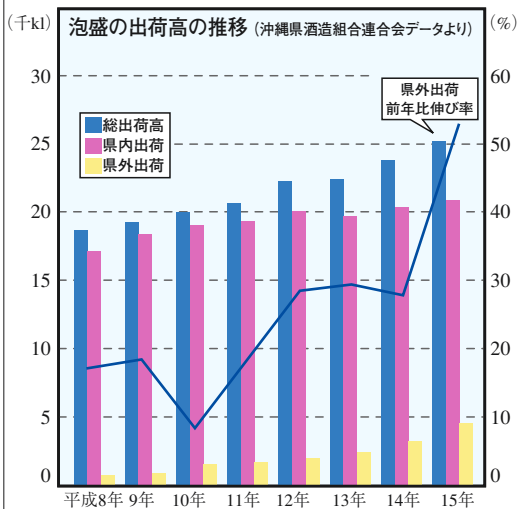
ているのが特徴。 のである」と述べている。

「品質表示は革命的改革」

昨年の5月30日、「百瀬先生と行く泡盛を楽しむ会2日間」の沖縄ツアーが行われた。東京から35名、地元から65名、総勢100人が参加した。1時間ほどの講演の中で、百瀬氏は「いつもダメダメだ」といっている辛口の私がものすごく誉めたのが、今回の自主基準づくりだ」と語った。自主基準とは、古酒の年数表示などを厳格化する沖縄県酒造組合連合会(佐久本武会長)の自主規制のことだ。分りつらい品質表示を明確化することで泡盛ブランドを確立し、一層の普及を狙ったものだ。6月1日からスタートした。

今の世の中はコンプ

製法特許と協業化で生き残れ



自ら愛好家の会長兼ねる

沖縄地場産業の雄 泡盛の消費が伸びている。このところの焼酎ブームも背景にあるが、03年の泡盛出荷量は前年度比9・8%も増えた。中でも泡盛人気を押し上げているのが県外出荷だ。県内向けが同3・7%にとどまっているのに対し、県外向けは50・2%と驚異的な伸びを見た。この泡盛の普及に力を注いでいるのが、明大教授の百瀬恵夫氏だ。泡盛愛好会「紺碧会・東京」の会長も兼ね、自らブランド確立の先頭に立っている。百瀬氏を沖縄へ、泡盛へ駆り立てるのはなぜか

ライアンス、つまり順法精神を欠いたり説明義務を怠ったりすると、雪印(乳業)、三菱自動車(車)のように、企業は消費者からそっぽを向かれる。その意味で今回の自主基準は大革命だ。飛び上がらなばかりの賛辞を贈りたい。

「泡盛持つて、身銭で銀座飲み歩いた。スポンサー付きじゃないから値打ちが違つ」
わが国でもっとも評価され、経営する「瑞泉酒造」も手伝つてか、上機嫌で泡盛の試飲を行つてい組合を持ち上げた。百瀬氏が泡盛の普及に



▲「百瀬先生と行く泡盛を楽しむ会2日間」で講演する百瀬教授(昨年5月)

考えていた酒造組合がマレーケイティング調査を依頼したと語り、会場を沸かしたのがきっかけだ。以来、自らが先頭に立って泡盛の普及にのめりこんでいく。

「3K経済」
しかし、「3K経済」と呼ばれる沖縄の基幹産業である「観光、公共事業、基地」が本土資本に牛耳られ、様々な矛盾を多かつた。それでも私抱えていることを踏まえ、泡盛を持つて銀座を飲み歩いた。ママさんや経営者に泡盛を置いてくれるよう頼み歩いた。すべて身銭だ。スポンサー付きとは違つて、自分のカネだから値打ちが違

「このままでは泡盛は本土の大手酒造メーカーが製造に乗り出す。大手の進出を阻むには、製法特許を取る以外方法は無い。製法特許は申請が難しいという声もあるが、やつてやれないことはない。これはある意味で知的財産権のひとつだ。もうひとつ大事なの

泡盛 県外出荷52%伸びる

品質表示でブランド確立

焼酎ブームに乗って、合連合会がまとめた泡盛 伸ばしている。内訳は、このところ泡盛の県外出荷の出荷高の推移を見たもやはり県内出荷が圧倒的だが、これによると総出荷高は13年度が伸び、荷高の9割近くを占めて26・4ポイント、52・2%増と5割を突破。総

出荷高に占める割合も17・4%へ押し上げた。16年度も順調に伸びており、総出荷高に占める割合は2割を突破している模様だ。

全国の焼酎消費量に占める泡盛のシェアはわずかに1%程度といわれているが、品質表示制度などによる差別化で本土での普及に力を入れて



▲泡盛を飲みながら沖縄料理に舌鼓打つ参加者

根底に流れる沖縄に対する「愛」

前泊氏は現在、琉球新報社の編集委員を務めており、昨年は「外務省機密文書の暴露と地位協定の改定を目指すキャンペーン報道」が評価され、優れたジャーナリズム活動・作品を顕彰する日本ジャーナリスト会議(JCJ)賞を受賞。また、早稲田大学の「第4回石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞」も、同じ理由から受賞した。

弟子の前泊氏はJCJ賞と早稲田ジャーナリズム大賞W受賞

は、組合という組織を使うことだ。そうしないと大企業には勝てない。協業化は26年も前から私が言っていることだが、協会・東京」も、年々盛り業化をいっそう進めて、上がりを見せている。スタート時点の会員出席者は約50人だったが、昨年は540人を突破した。

共著「検証『沖縄問題』」

百瀬氏は沖縄の本土復帰30周年に当たった平成14年、九州大学大学院助教授・前泊博盛氏と共著で「検証『沖縄問題』」(東洋経済新報社)を著した。沖縄に関する諸問題について検証し、将来展望を示した書物だ。

書物では、誰も知らないはずの中央官庁の内部メカが明らかにされているなど、痛烈な政・官界批判も展開されているが、「二人の著者は、師弟関係のなかで醸成された沖縄に対する熱き思いと問題意識を共有するもの同士であり、本書を貫く評論の基調は、沖縄に対する愛である」(はしがきと述べられている)。

泡盛については、「沖縄の伝統産業のなかでは『泡盛』が有望株であろう。業界にとって、品質面での向上を求められ、価格競争に耐える経営の合理化、生産性の向上が不可欠になってきている。……」などと記述されている。

会員540人

教授を沖繩に駆け立てる愛と憎しみ

「生きて虜囚の辱め受けた」兄への複雑な想い

百瀬氏を沖繩に駆け立てるのは「生きて虜囚の辱めを受けた」実兄87歳への複雑な想いだ。一言でいえば、戦争に対する憎しみと肉親への愛だ。お兄さんは、日本軍の敗色が決定的となっていた昭和19年、義勇軍として沖縄に出兵。命を懸けて米軍艦に突撃する魚雷艇・震洋の搭乗員として死地の旅についた。ところが、当時の日本軍の魚雷艇はベニア板製で、エンジンの性能も低く、事故や誤爆で本来の目的を達成できたものは少なかった。成功率は1割で、死亡率は9割といわれている。お兄さんの魚雷艇も体当たりできずに負傷、米軍の捕虜となり終戦を迎えた。命からがら帰ってきた故郷・長野県松本市でお兄さんを待ち受けていたのは、住民の冷たい視線だった。長野県で一人生きて帰ってきた特攻隊員を見ようと、至るところから見物人が訪れた。当時10歳の百瀬氏も「軍国教育を受けていた私も、兄は帰ってこなかったほうがいいと思っただけだ」。

魚雷艇として出撃した兄は捕虜に 帰国後、自殺図るも死にきれず

「お兄さんが乗った船を造っていたとは…」世の中は不思議なものだ。お兄さんは、性能が劣る魚雷艇のおかげで生還できたともとれるが、そのベニア板製の魚雷艇を作っていたのが、明大の同窓で同年代の明治大学評議員会前議長・宮内久雄氏だ。「私は学徒動

死ななかった。その後、お兄さんは警察予備隊後の自衛隊に入り、現在も健在だ。百瀬氏は沖繩に来るよう何度も兄を誘ったが、本人は首を縦に振らなかった。兄を育てていると、悲慘な戦争はあつてはならないとつくづく思うと語る。

百瀬氏は、中小企業研 柱であり続けられるのも、究の第一人者として知られるが、たの 学者 表的な著書「中小企業 エキスとなつて。全 ではない。自ら現場に赴き指導活動を行う「実践 経済新報社刊で、百瀬 家だ。全国中小企業団 体中央会などの理論的支



▲明大評議員会前議長・宮内氏

理論と実践を統一

武闘派教授の真骨頂

百瀬氏は、中小企業研 柱であり続けられるのも、究の第一人者として知られるが、たの 学者 表的な著書「中小企業 エキスとなつて。全 ではない。自ら現場に赴き指導活動を行う「実践 経済新報社刊で、百瀬 家だ。全国中小企業団 体中央会などの理論的支

百瀬節で締めた最後の「百瀬ゼミ」

最後も百瀬節——百瀬教授の最後の「百瀬ゼミ」が2月1日、明大駿河台校舎12号館で行われた。最後のゼミ生の1人、29期の大野紀咲子さんが「百瀬節の知識」と題するレポートを発表したのに対して次のように語った。人間・百瀬を象徴する話だ。

「僕はねえ結婚するとき金がなくてねえ25歳だったかな。カアちゃんに結婚指輪も買つてあげられなかった。それで、カアちゃんも自分で買つて、僕からもらったとみんなに言っていた。涙が出たねえ。何と言つては男だろうと。

40歳近くになつて、罪滅ぼしのつもりでインドネシアで2・5カラットもある、大きなダイヤモンドの指輪を買つてカアちゃんに贈った。値段にして200万円近くしたんじゃないかなあ。ところが、『私には大きすぎて似合わない』とはめてくれなかった。あれは娘にいくんでしょう。誕生石が一緒だから」



柔道部の部長

百瀬氏は身長163センチの短躯だが、柔道は護道の館4段。明大体育会柔道部の部長を務めるほどの柔道愛好家だ。柔道世界選手権で3連覇を達成した小川直也氏やオリンピックメダリストの吉田秀彦氏、園田隆二氏、阿武教子さん、秀島大介氏

中小企業は出世魚目指せ

中小企業は1社だけで、ろつとも雑魚のままだ。なら俺をつぶしてからにはイワシみたいなもの。指さなければいけない。何匹集ま イナダからワラサ。ワラ

百瀬教授の愛情表現

百瀬氏は毒舌家として知られる。こんなエピソードがある。百瀬氏は、身内の会合では弊社・久米信廣代表を「もつとも愛するバカな弟子」と呼ぶ。

中国を訪問した際、通訳を務めた中国出身の弊社営業部・李相光39は、百瀬氏と久米との会話の中に「出てくる百瀬氏の「バカヤロー」の数を指折り数えていた。

その場に中国人はおらず、通訳する必要はなかったのだが、李は通訳の習性からそうしたまでだ(会話の中に出てくる単語の数を数えるという李も相当なもの「記者注」30〜40分の会話の中で15回を超えた。

その様子に気づいた百瀬氏は、李にも「バカヤロー」を浴びせた。びっ

どんなに酔っても罵倒する相手を誤らない

酔つ払いながらも「面白い」と漫談を隣時に区別し、なおかつバカヤローと罵倒する相手を誤らない、その頭の回転力の早さに記者は驚いた。益々、百瀬氏を好きになった。百瀬教が増えるのは当然だと思つた。

協同化には足元事業が明るいうちにやらなきゃダメだ。暗くなつてからは手遅れ。中小企業なんて、明日はどうなるか分からない。競争と協同は目的は同じだ。利害は一致もしたり不一致もあるもの。昨日の友は明日の敵。協同とはコーポラティブと呼ばれるが、私はCチエーン型コーポラティブを推奨したい

関係者のコメント

「私も百瀬教の一人。学生ころから正義感が強かった(松島氏)

「言葉は厳しいが、先生は我々の誇り」(佐久本氏)

ワイフインターナシ、正義感の強い男だ。石たれ」と訴え、優勝したのを覚えていた。今から50年前、氏69「百瀬氏と同級生。またまだソ連などの影。私、百瀬教。信者。響力が大きく発言に気。の一人。学生時代からをつけなければならな。付きあっているが、彼いとき、彼は弁論大会。昭和56年だった。泡盛を全国区にしようとはウイスキーの「リ



▲佐久本武氏

代から組合の指導をして頂いている。東京の「組委會」の会員は50人ぐらいいからスタートして今では500人を超えている。それみんな大いいてくれた。百瀬先生はわれわれの誇り

